

厚生労働省
令和6年度補助事業

介護のしごとと魅力発信等事業

企画提案書



朝日新聞社

2024年3月21日

令和6年度事業方針

当社では、過去数年間にわたり「これからのKAIGO」プロジェクトを行って参りました。

アクティブシニア、ミドル層、若年層にむけて、介護のしごとの魅力を様々な手法で発信して参りましたが、

令和6年度は、これまでの事業ターゲットを踏まえつつ『**子ども（次世代）**』を**ターゲットの中心**に据え、事業を展開したいと考えます。

出生率が減り続ける中、各業界で若手人材の奪い合いはますます激化していくことが予想されます。

その一方で、A I の進化により、今後さまざまな仕事が淘汰されると言われており、幼い子どもを育てる保護者や教育関係者は、子どもの教育・進路選択支援に大きな不安を抱えています。

そんな中で断言できるのが、介護は、A I がとって変わることのできない「人にしかできない」仕事だということです。

もちろん、技術革新により、介護業界にも効率化していく業務はありますが、相手の気持ちを汲み取り、コミュニケーションをとりながら適宜判断し、相手を支える介護という仕事は、人と人の関係を前提としているからこそ、成り立っています。

そして、人と人との関係に基づく仕事であるからこそ、介護という仕事には魅力・やりがいがあります。

私共は、『**これからのKAIGO**』を担う子ども達、**子どもの選択に大きな影響力をもつ教職員・保護者に向けて**、魅力・やりがい・面白さを、発信します。

教育現場を中心舞台に、「教育の朝日」だからこそできる重層的な取組を企画し、小学生・中学生・高校生に、「ケアのこころ」の種を蒔きます。

「ケアのこころ」が子どもたちに芽生えることで、介護という仕事が将来の職業選択のひとつとなり、また高齢者福祉に限らず、地域で支え合う社会づくりの姿勢が身に着くものと考えます。

「これからのKAIGO ～はっけん！ケアのこころ、ケアのしごと～」プロジェクトを通じて、ひとりでも多くのこどもたちが介護という仕事の面白さを知り、やってみたい！なりたい！なろう！と目指すことをゴールに、事業を推進いたします。

**「これからのKAIGO」を担う子どもたち、
小学生・中学生・高校生がターゲットの中心**



ターゲット設定の考え方



人材確保の考え方

介護人材を確保するためには、働く意欲のある高齢者、子育てを終えた層、他業種、外国人等、多様な人材に介護の理念など正しい知識を持ってもらった上で福祉・介護分野に参入してもらう必要があります。また、将来の担い手となる若い世代とその保護者や教職員に向けても介護・福祉と触れる機会を創出し、将来の職業選択につなげるための理解促進を行います。

- 次世代の労働力確保の観点から、**こども層（小中高生）**への働きかけが、重要です。介護労働実態調査では介護職のうち50代以上が40%を占めています。2040年までに高齢を理由に離職することを考慮すると、介護人材の不足はさらに深刻となります。子供の時から教育現場などで介護・福祉に触れる機会をつくり、将来なりたい職業として介護の仕事を選択してもらう政策が重要だと考えます。
- そのために**保護者・教職員（ミドル層）**にも理解を深め、子世代への後押しをもらうことも大切です。また保護者世代自身も異業種での経験やスキルを生かして、介護現場での生産性向上に寄与することが期待されます。それまでの経験や得意分野を生かす道もあれば、そこから介護の専門性も高め、介護福祉士等としてキャリアアップする道もあります。
- また、今現在の介護の質を高めていくには、介護福祉士を介護職グループのリーダーとして育成し、**アクティブシニア**に間接的な業務を担う、いわゆる「介護助手」として参入してもらうことが有効です。これまで介護福祉士が担っていた業務のうち、専門性を必要としない周辺業務のみを担当する「介護助手」の参入を促進し、専門性の高い業務に専念できる環境を整備するとともに、新たな人材の確保にもつなげます。



すそ野の拡大（多様な担い手の確保）

事業のターゲット



ターゲット設定

- 以上のことから、本事業のメインターゲットを「こども層」、「保護者・教職員（ミドル層）」、サブターゲットに「アクティブシニア層」に設定いたします。
- ターゲットに合わせた施策で、効果的な情報発信を行います。

メインターゲット ① こども層



- ・ 「ケアのこころ」を育てる
- ・ 小中高生のなりたい職業に

介護に触れる機会の少ない小学生から、まだ進路が定まっていない10代学生に向けて教育現場との連携を図る。介護・福祉を知ってもらうことから、「ケアのこころ」「助け合いのこころ」を育てることで将来のなりたい職業の選択肢として関心を持ってもらう。

メインターゲット ② 保護者・教職員



- ・ 子どもや生徒を応援できる
- ・ 自らもキャリアチャレンジ

子どもを教育する立場にある保護者、教職員に向けて、福祉・介護を子どもと一緒に学ぶ機会を作り、子どもや生徒たちの進路選択の応援意向を向上させる。同時に、即戦力となり得るミドル層として、自らのキャリアチャレンジも促す。

サブターゲット アクティブシニア層



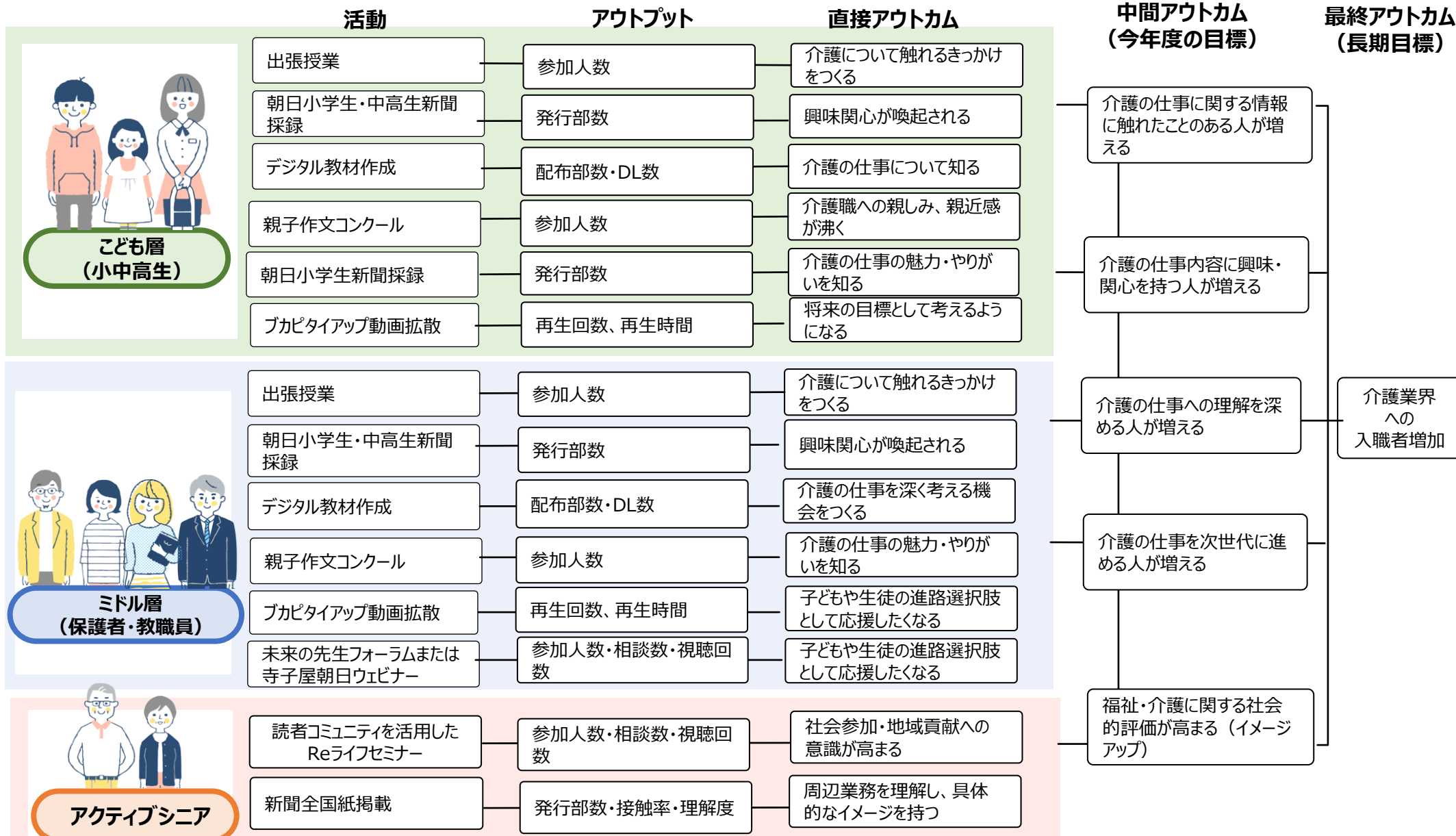
- ・ 就労意欲の後押し
- ・ 地域貢献を叶える

働くことに意欲的なアクティブシニアに、地域貢献や自分の得意とするものが生かせる職業として、介護の仕事という選択肢を提供する。

目標設定



事業実施におけるアウトカム（成果）の設定



1

事業内容及び手法



1 事業内容及び手法

具体的な手法_事業全体概要



これからのKAIGO ～はっけん！ ケアのこころ ケアのしごと～

企画委員会

学識経験者・職能団体、介護事業者・実践者、有識者で構成する企画委員会を設置。年3回会議を実施し、効果的な広報と正しい情報発信に努めます。

ポータルサイト「これからのKAIGO」

パソコン用／スマートフォン用それぞれに対応した、情報発信の拠点。

https://www.asahi.com/ads/korekarano_kaigo/



1 全国の小中高 出張授業 8～10か所



2 小学生向け デジタル教材の開発



3 親子作文コンクールの開催 介護のしごとについて、親子で学び考える機会



介護の
仕事体験会
も開催

4 高校生介護技術コンテストを起 点とした中高生アプローチ



5 教職員向けイベントでの 直接アプローチ



寺子屋朝日
for Teachers

6 アクティブシニア向け 日本最大級の アクティブシニアコミュニティの活用





これからのKAIGO



はっけん！ケアのこころ ケアのしごと



「これからのKAIGO ～はっけん！ケアのこころ ケアのしごと～」

過去数年間掲げてきたプロジェクト名「これからのKAIGO」を、
メインターゲットである子ども層に向けて、リニューアルいたします。

これからの介護業界を担う、小中高生が、介護のしごとに主体的に接する機会を通じて、
ケアのこころを養い、介護のしごとの魅力を『発見する』。本事業の主旨・ゴールを端的に表しており、
このプロジェクト名の下、子ども、保護者、教職員、そしてアクティブシニアに対して、事業を推進いたします。

1 事業内容及び手法

具体的な手法



コミュニケーションのポイント

メインターゲットである小中高生および保護者・教職員とのコミュニケーションにおけるポイントは、「探求学習」「主体的な学び」です。



はっけん！ケアのこころ ケアのしごと

教育現場での啓発が重要だが、「介護」や「福祉」は学校教科として必須ではないため、小中高生が授業で接する機会は少ない。そこで「総合的な学習（探究）の時間」など、社会課題が題材となることが多い授業にて「介護」「福祉」を取り上げる機会を創出する。

先生方の、介護の仕事に対する理解度はあまり高くないのではないかと？機会創出のためには、先生方のニーズを意識したうえで、「授業で取り上げやすくなる」適切な授業材料の提供が必要。また総合型学習選抜など「主体的学び」が重視される入試制度を踏まえた、入試や将来の就職活動を意識したコンテンツを提供することで、保護者の接触意欲も高める

「はっけん！ケアのこころ ケアのしごと」というコンセプトで、親子で介護の仕事を体験する機会や主体的に考えるイベントの実施、先生が活用しやすいデジタル教材の開発等企画し、介護のしごとというテーマで、子ども達の「探求学習」「主体的な学び」を実践する。

結果、小中高といった早期のうちに介護の情報に触れる機会を創出することで、最終的な職業選択時に「介護の仕事の一つの選択肢にする」人の数を増やす。

1 事業内容及び手法

具体的な手法



1. 小中高生向けの出張授業

「ケアのこころ」を身につける授業

弊社グループ会社における教育機関とのつながり・授業実施のノウハウを活用し、全国の小学校・中学校・高校合計10か所出張授業を開催します。各地域の介護事業者の方や、本事業（介護職発信事業）で採択された社会福祉法人等の事業者とも連携し「ケアするこころ」を育み、介護のしごとの魅力について伝える授業いたします。小学校（中学校）では、**保護者も授業参加可とし、親子で一緒に学ぶ機会を創出します。**



- 開催時期：2024年10月～12月
- 実施回数：全国8～10か所（予定）
小学校3～5か所、中学校3か所、高校2か所（予定）
➡ **小学校（中学校）では、保護者も参加可能な形式**
- 実施方法：各学校の総合学習等で実施
- 授業内容：
 - **小学校**
介護事業者によるレクチャーやクイズ形式による対話型グループワーク等
 - **中学校**
介護・福祉が生まれた背景、「仕事としての福祉・介護」について事業者や若手職員による講義
 - **高校**
先進的な取り組みをする介護事業者による講義やキャリア教育

介護職発信事業で採択された社会福祉法人等と連携し、一部地域の出張授業で講師役にお招きします。

出張授業を通して、介護のしごとの役割・社会的意義ややりがいについて理解を深め、「ケアするこころ」を育みます。また、講師による授業は撮影し映像として保存、介護のしごとのキャリア教育授業の実践例として、希望する教育現場で利用可能にします。

1 事業内容及び手法 具体的な手法



1. 小中高生向けの出張授業

告知・採録方法

出張授業は朝日小学生新聞、中高生新聞を使って広く募集し参加校を募ります。また、授業の様子は後日、小学生新聞、中高生新聞に採録し、全国に発信いたします。子どもだけではなくその保護者にも読まれるため、介護職を目指す学生の選択を保護者が応援したくなること、保護者自身も介護に関心を持つような紙面を作成いたします。

朝日小学生新聞



1967年に健全な青少年育成のため創刊された、日本で唯一のブランク判小学生新聞です。朝日新聞販売店から毎日ご家庭にお届けしています。

掲載概要（予定）

- 媒体：朝日小学生新聞
- 体裁：告知 5段カラー／モノクロ 採録15段カラー
- 時期：告知 2024年6月頃～採録 2024年12月頃
- 部数：**105,284部** ※2022年1月時点

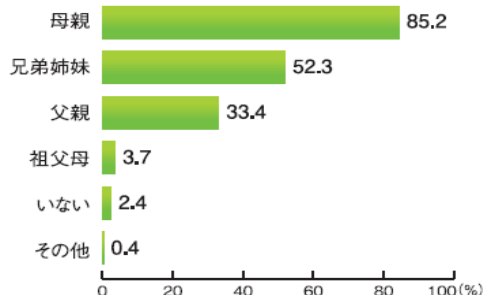
ポイント



ミドル層（子育てを終えた層）にも届く！

お母さんの約85%がいつしよに愛読

子ども以外の家庭内読者(複数回答)



お母さんは30代半ば～40代半ば

30歳～35歳未満	3.8%
35歳～40歳未満	17.5%
40歳～45歳未満	44.5%
45歳～50歳未満	26.6%
50歳以上	8.6%

40代が**71.1%**を占めています

1 事業内容及び手法

具体的な手法



1. 小中高生向けの出張授業

朝日中高生新聞

Asahi Student Newspaper



中高生やネットで注目されている話題、記者が見つけたネタなどニュース以外も職業や大学を取り上げ、読者のキャリアに役立つ情報も掲載

掲載概要（予定）

- 媒体：朝日中高生新聞 タブloid版
- 体裁：告知 5段カラー／モノクロ 採録15段カラー
- 時期：告知 2024年6月頃～採録 2024年12月頃
- 部数：**47,962部** ※2022年1月時点

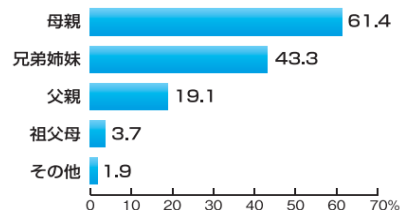
<MEDIA DATA>

ポイント

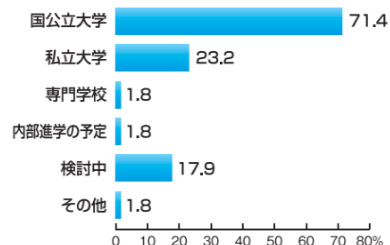


ミドル層（子育てを終えた層）にも届く！

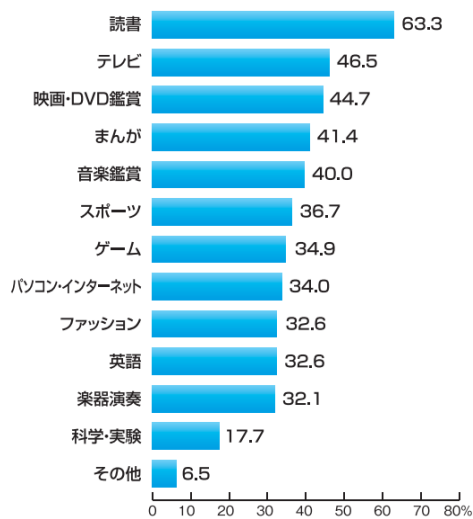
■読者以外の家庭内読者



■大学進学希望について



■興味のあること(複数回答可)



1 事業内容及び手法

具体的な手法



2. 小学生向けデジタル教材の開発

キャリア教育指導に応える教材開発

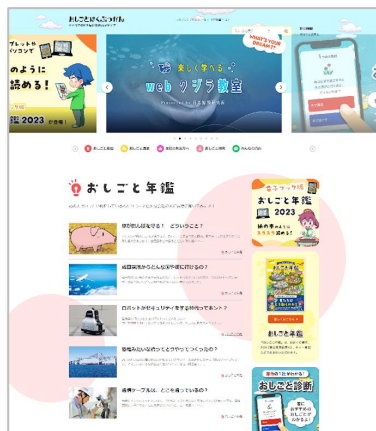
2020年4月にスタートした新学習指導要領では、「生きる力」を育むことが重要視されています。子どもたちには、早期から将来の仕事に興味・関心を高め、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育むことが求められています。朝日学生新聞社が運営する「おしごととはくぶつかん」は、キャリア教育支援のプロジェクトとして、教員への教材提供をはじめ子供たちが将来の仕事を描くビジョンのお手伝いをしています。そこで、「おとしよりのこと」や「介護のおしごと」に関する教材を作成し、学校などの教育現場で活用可能にします。

1 教材制作

- 小学生向けの「介護のおしごと」教材を制作。
動画作成、オリジナルクイズ、豆知識等（予定）
- 生徒への教材だけでなく、教員向けの指導案も合わせて作成し、指導方法を導く。

2 特設ページに格納

- 「おしごととはくぶつかん」内に特設ページ作成。
- 学生新聞社ルートで9,000校にメール等で送付。※親子作文コンクールのメールに付記
- HPからも教材はダウンロード可能。



おしごととはくぶつかんWEBSITEに特設ページを作成



デジタル教材はワークシート形式でダウンロード可能

1 事業内容及び手法 具体的な手法



2. 小学生向けデジタル教材の開発

WEBサイト「おしごととはくぶつかん」とは

WEBサイト「おしごととはくぶつかん」では、キャリア教育に関する情報を配信しています。『おしごと年鑑』協賛企業・団体様の紙面内容に加え、理解を深めるクイズを載せるほか、さまざまな企業活動を学べる読み物も充実。学校はもちろん、家庭でも楽しく閲覧できます。



おしごと年鑑



おしごと年鑑 とは

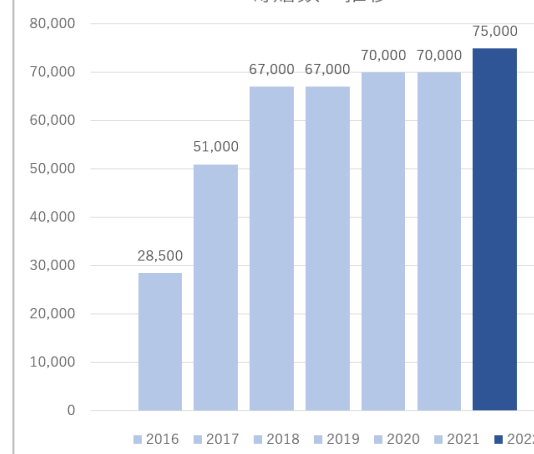


日本を代表する企業や団体の仕事を、豊富な図版と親しみやすいイラストで紹介。
子どもたちの身近な疑問を、わかりやすい文章で解決し「働くこと」を楽しく学べます。



2019年度より**市販本を発売**。
全国の小中学校、教育委員会、
こども食堂などに寄贈しています。

寄贈数の推移



1 事業内容及び手法

具体的な手法



3. 親子作文コンクールの開催

親子で介護について考え「自分ごと化」

小学生に「介護」に関心をもってもらうことを目的として、夏休みの「親子作文コンクール」を開催します。小学生にはあまり身近でない「介護」について、保護者と一緒に考えコンクール形式の企画にすることで「自分ごと化」として捉え、主体的な関心を促進します。

全国の小学生と保護者に募集
「介護」について考えるきっかけを提供



親子作文コンクールの開催

都内のサマースクールで
介護のしごと体験会を開催

子どものうちから「介護」について触れる機会を増やし、興味・関心を引き出します。
保護者にとっても子どもと一緒に考えることで、再認識や新たな気づきを与えます。



3. 親子作文コンクールの開催

開催概要案

「介護とわたし 親子作文コンクール」

■募集テーマ

「介護」に関わること、自分の思うことを作文で表現する。

■対象

小学生とその保護者

■告知

朝日小学生新聞 5段カラー 複数回（予定）

小学校9,000校へメール、サマースクールでの告知等

■募集期間

2024年年7月上旬～9月上旬（予定）

■作文作品規定

手書き文章のみ（デジタル不可）※要相談

■作文用紙

400字詰め原稿用紙、朝日新聞デジタルまたはポータルサイト特設ページから、作文用紙をダウンロード・出力も可能。

■副賞

図書カード（予定）

例：「介護について思っていること」、
「介護について学校で学んだこと」
「おじいちゃん、おばあちゃんにしたいこと」
「職業体験で介護施設に行って学んだこと」等。



優秀賞など

■発表

朝日新聞デジタル・朝日小学生新聞にて発表予定

■審査員案

岸田奈美氏（作家）、井上咲楽氏（タレント）など

※上記審査員は候補のため確約するものではありません

1 事業内容及び手法

具体的な手法



3. 親子作文コンクールの開催

介護に接する機会のない子ども・保護者にむけて、サマースクールを活用した介護のおしごと体験会を開催いたします。体験会を通して「ケアのこころ、ケアのしごと」を学び、介護への興味・関心を喚起することで、親子作文コンクールへ応募するきっかけを作ります。

「朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」

■主催

朝日学生新聞社

■共催

東京理科大学 東京工業大学

■開催日程

2024年7月13日（土） 11:00~17:00

■告知

朝日小学生新聞 5段カラー、15段カラー（予定）

※イベント全体告知

■入場料

無料

■介護おしごと体験会を実施

「車いす」「ロールプレイ」などの体験会を通して、「ケアのこころ」を育むとともに、親子で介護・福祉の意義を学びます。

サマースクールは、「親子に夏休みの楽しい学びの場を提供する」という目的のもと、2007年に初めて開催されました。これまでに次代を担う子どもたちとその保護者、延べ9.5万人以上が参加し、今年で17年目を迎えます。



今年の主催者プログラムにさかなクン出演決定！



1 事業内容及び手法 具体的な手法



3. 親子作文コンクールの開催

告知・採録方法

コンクールは朝日小学生新聞や小学校9,000校へのメール、サマースクール等を使って広く募集します。また、入賞作品は後日、小学生新聞に採録し、全国に発信いたします。子どもだけではなくその保護者にも読まれるため、介護職を目指す学生の選択を保護者が応援したくなること、保護者自身も介護に関心を持つような紙面を作成いたします。

朝日小学生新聞



1967年に健全な青少年育成のため創刊された、日本で唯一のブランケット判小学生新聞です。朝日新聞販売店から毎日ご家庭にお届けしています。

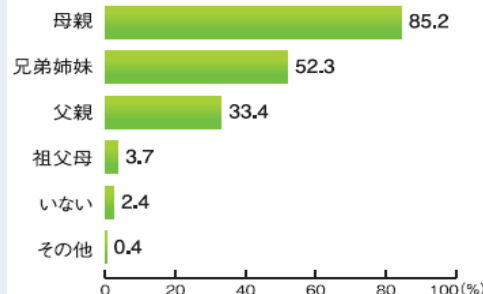
告知・採録媒体

- 媒体：朝日小学生新聞
- 体裁：告知 5段カラー／ 発表 5段カラー
- 時期：告知 2024年6月頃～ 発表 2024年11月頃
- 部数：105,284部 ※2022年1月時点

ポイント ミドル層（子育てを終えた層）にも届く！

お母さんの約85%がいっしょに愛読

子ども以外の家庭内読者(複数回答)



お母さんは30代半ば～40代半ば

30歳～35歳未満	3.8%
35歳～40歳未満	17.5%
40歳～45歳未満	44.5%
45歳～50歳未満	26.6%
50歳以上	8.6%

40代が71.1%を占めています

1 事業内容及び手法

具体的な手法



3. 親子作文コンクールの開催

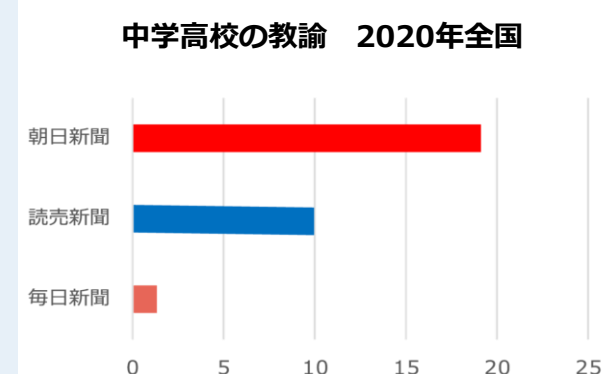
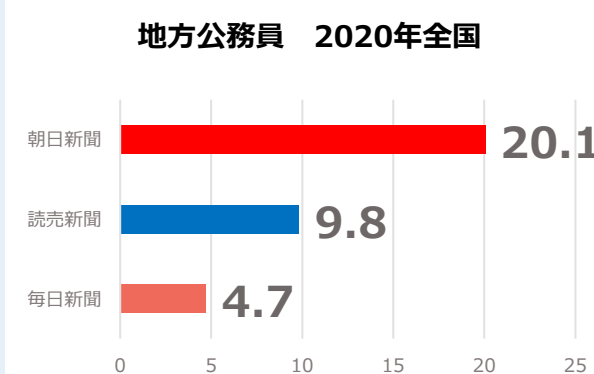
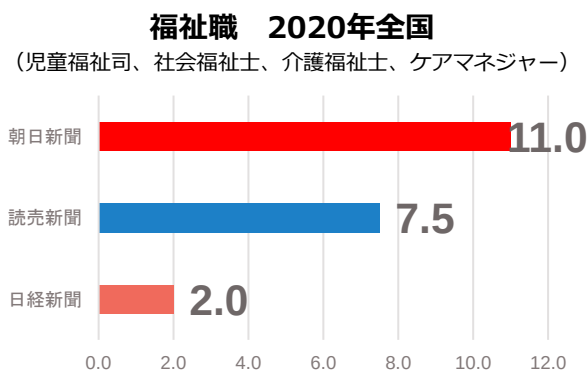
全国紙を活用した告知も行います

1. 圧倒的なリーチで、社会全体へ情報発信。
2. 福祉職や行政関係者・教職員等の購読率が高い新聞は、親和性の高い層へ訴求することが可能。



朝日新聞MEDIADATA

総販売部数	朝 刊
5本支社合計	3,974,942部
東京本社版	2,289,378部
大阪本社版	1,065,325部
西部本社版	323,992部
名古屋本社版	217,903部
北海道支社版	78,344部





4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」 YouTube×SNS動画拡散

昨年度実施した部活応援メディア「ブカピ」を活用した全国高校生介護技術コンテストの密着動画。強豪校2校の地区大会、全国大会出場の様子を密着。若年層に向けて介護について触れるきっかけをつくり、その魅力や人の役に立てる喜びを発信。**介護に一生懸命に取り組む多くの同世代の共感を生み、企画委員や職能団体の方々から、高評価を頂戴しました。**

■ 令和5年度本事業における第三者（職能団体等）のコメントより（抜粋）

- ・ 中学生は、福祉・介護がお年寄りの方と働く職業であることは理解しているが、介護福祉士という介護の「プロ」の仕事内容を具体的に想像できていない。介護のしごとのイメージを抱いてもらうには、技術コンテストなどの「こういうプロになりたい」「こうやってお年寄りの方が笑顔になっていくのだ」と感じてもらえるようなコンテンツを発信していくべきだ。
- ・ 全国福祉高等学校長会としての活動の中で高校生介護技術コンテストがあり、各地区で予選を行い、更には全国大会実施を通して介護の魅力を発信していることを常々発言していた。今回取り上げていただいたのも、これまでお伝えしてきた成果と感じている。



そこで今回は、**全国高校生介護技術コンテストに、「これからのKAIGO賞」を新設（1校）。**

優勝校に加えて、「これからのKAIGO賞」受賞校（高校生3名、引率教員1名）、が副賞の**デンマーク研修に参加**可能にする。

介護のしごとを目指す高校生のチアアップにつなげる。 ※全国福祉高等学校長会内諾済み



「優勝⇒デンマーク研修⇒新たな学び」というサクセスストーリーに焦点を当て、映像化。
小学生・中学生にとって、目指すべき「憧れの先輩」を描き、
同時に、介護のしごとへのイメージアップをはかり、保護者の応援意向アップにつなげる。

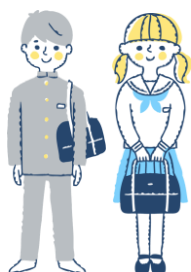


1 事業内容及び手法

具体的な手法



4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」 YouTube×SNS動画拡散



①全国大会の密着動画



②デンマーク研修の密着動画



1 動画制作



- 全国高校生介護技術コンテストの前年度優勝校の生徒たちに密着。デンマーク研修の体験・新たな学びを深掘りする動画を制作・配信する。
- 令和6年度コンテスト全国大会に密着し、優勝校・これからのKAIGO賞受賞校を取材。動画2本目として配信。
- 令和6年度のデンマーク研修の様態も撮影し、年度内納品。
- 大会に取り組む姿や、デンマーク研修を経てさらに成長した高校生を小中学生の「憧れの先輩」となるような動画を作成し、福祉や介護に関心のない生徒にも視聴を誘引します。



2 動画拡散

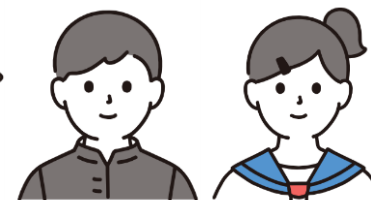
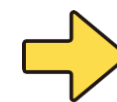
①「ブカピ」YouTubeチャンネル

チャンネル登録者数：12.6万人
再生回数：10万回想定



② SNS

imp数：600万～900万imp想定



1 事業内容及び手法

具体的な手法



4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」 YouTube×SNS動画拡散

ブカピとは・・・

学校の部活はもちろん、サークル、趣味、サブカルなどを「部活」とくり、一生懸命に取り組む人たちを応援するプロジェクトです。高校生を中心とした層にリーチできることが特徴で、最近は小中学生や保護者からの認知度もあがっています。

ブカピが持つメディア YouTubeチャンネルを軸に、地上波・ラジオ・デジタルなどクロスメディアにコンテンツを展開



地上波番組



YouTube



チャンネル登録者数 **10.2万人**
総再生数**1億回**

インフルエンサー

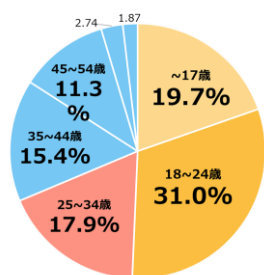


総フォロワー700万人超えの
インフルエンサー「なえなの」が
番組MC

SNS



トータル**9万人超**



- ブカピ視聴者は大きく**現役部活生、保護者・学校関係者**
- 24歳以下の視聴者が**50%**
- ABCテレビは**主要時間帯視聴率No.1!**

「M-1グランプリ」や「芸能人格付けチェック」など大人気の番組を制作しており、視聴者の心を掴むクオリティの動画制作が期待できます。

※ABCテレビの制作番組



ブカピYouTube





4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画① 案

「前年度優勝校 生徒たちのデンマーク研修レポート」

「全国高校生介護技術コンテスト」の前年度優勝校の生徒たちに密着。
優勝・デンマーク研修を経て、どんな学び・成長につながったか、その体験を語っていただきます。
前年度撮影した大会映像も活用しながら、高校生たちが成長し、生き生きと輝く姿をとらえ、
中高生が「憧れ」を抱くような動画に仕上げます。

①オープニング（スタジオ撮影）



- スタジオのMCインフルエンサーがオープニングでV振り
- インフルエンサーの登場はV振りのみ（スタジオ収録）

②デンマーク研修レポートVTR



- 優勝したときの想いや、3月のデンマーク研修でどんな体験・学びを得たか、生徒それぞれに語っていただきます。

③エンディング



- 介護技術コンテストで、自分がどのように成長できたか、今後どんな介護のしごとを目指していきたいか、意気込みを語っていただき、後輩たちへのメッセージも寄せてもらいます。

1 事業内容及び手法

具体的な手法



4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画②案

「全国大会をインフルエンサーが現地取材」

11月に栃木で開催予定されている「全国高校生介護技術コンテスト」の様子をインフルエンサーが現地取材。優勝校やこれからのK A I G O 賞受賞校等のがんばる姿を取り上げます。

大会に出場する高校や部員たちを、インフルエンサーが実際に現場取材して伝えることで、介護職の魅力を、小中高生に向けて発信する

①オープニング（現地撮影）



- インフルエンサーが大会開催地（栃木）でオープニング
- 「今回のブカビは特別編！なんと「介護技術コンテスト」の全国大会を現地で密着取材します！」

※写真は地上波MCなえなのイメージ

②全国大会の現地取材VTR



- インフルエンサーに全国高校生介護技術コンテストを
- 現地取材してもらう。出場校や部員にインタビューも

③エンディング（現地撮影）



- 取材を終えたインフルエンサーが現地で感想を述べる
- デンマーク研修編への誘導も

1 事業内容及び手法

具体的な手法



5. 教職員向けイベントの開催

教職員に向けたイベントの開催

就職・進学を選択するには、教員の助言や後押しも非常に重要です。そこで、教職員に対して「介護とキャリア教育」をテーマに、介護職の魅力ややりがいやキャリア形成の充実を伝えるとともに、介護の魅力を多角的な視点で説明するイベントまたはウェビナーの開催により、学生の介護分野への参入を教員が後押しする教員を増やします。

「未来の先生フォーラム」への出展



2017年より年の1度開催している、社会の動向を理解し、自ら学び専門性を向上させたいと願う先生たちをはじめ、**教育業界の関係者が来場する日本最大級の教育イベント。**

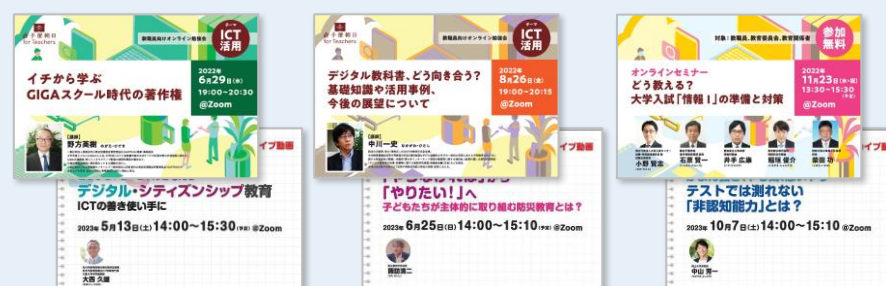


ウェビナー開催



寺子屋朝日
for Teachers

朝日新聞の教育領域・データ領域でのアセットを活用した**教員IDプラットフォーム「寺子屋朝日forTeachers」**を活用し、教職員を対象にしたウェビナーを実施いたします。



上記いずれかの施策で、教職員に向け介護のしごとの理解を深め、
学生参入を促進しやすい土壌をあらゆる視点から作ります



5. 教職員向けイベントの開催

プラン① 全国最大級の教職員イベントへの出展

教職員や教育関係者が集まる日本最大級のイベントで、「介護とキャリア教育」をテーマにしたセミナー＆ブース出展を実施。
教職員へ介護のしごとや業界についての理解を深め、学生への指導や進路選択の参考になるような機会を創出します。

掲載概要（予定）

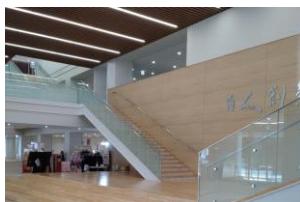
- 名称：「未来の先生フォーラム2024リアル」
- 会 期：2024年9月14日(土)・15日(日) 10:00～17:30
※開場10:00
- 実施場所：桜美林大学新宿キャンパス
東京都新宿区百人町3丁目23-1番
- 主 催：未来の先生フォーラム2024実行委員会
- 共 催：朝日新聞社
- 想定参加申込者数：2,000名程度 ※2日間述べ人数

参加費（予定）

- 【教職員と学生】事前0円、当日1,000円
- 【一般】事前3,000円、当日5,000円

2023年度後援実績

- 省庁 文部科学省、経済産業省、総務省
- 教育委員会 各都道府県



セミナー（予定）

- 時 間：1プログラム 70分予定
 - テ ー マ：「介護とキャリア教育」
 - 出演者：キャリア教育有識者、**介護事業者・実践者**
 - 内 容：キャリア教育の大切さと、介護・福祉業界の事例、
取組好事例など
- ※セミナー、ブースではアンケートを実施いたします。

本事業（介護職発信事業）の採択者と連携したセミナーを検討いたします

時間	1日目	2日目
10:00	開場	
10:00～10:30	ブース・ポスターセッション	
10:30～11:40	プログラム1（同時間に10プログラム想定）	
11:40～12:50	ブース・ポスターセッション	
12:50～13:50	プログラム2（同時間に10プログラム想定）	
13:50～14:20	ブース・ポスターセッション	
14:20～15:20	プログラム3（同時間に10プログラム想定）	
15:20～15:50	ブース・ポスターセッション	
15:50～17:00	プログラム4（同時間に10プログラム想定）	
17:00～17:30	ブース・ポスターセッション	



5. 教職員向けイベントの開催

プラン② 教職員に向けた「介護とキャリア教育」ウェビナー

教職員に対して「介護とキャリア教育」をテーマに、弊社の教育領域・データ領域でのアセットを活用した教員IDプラットフォームを活用したウェビナーを開催します。介護の実習などでは、さまざまな課題に直面します。周囲との円滑なコミュニケーションにより、冷静かつ論理的に考察して、直面する困難や課題の解決方法を見つけ出す力は、キャリア教育と密接に関わっていると言えます。教職員に「介護とキャリア教育」の理解を深めてもらい、学生の介護分野への参入を後押しするきっかけを作ります。



寺子屋朝日
for Teachers

朝日新聞の教育領域・データ領域でのアセットを活用した教員IDプラットフォーム「寺子屋朝日for Teachers」を活用し、教職員を対象にしたウェビナーを実施いたします。

開催概要（予定）

- 日時 : 2024年11月上旬
- 会場 : オンラインにて実施
- 応募方法 : ID会員向けメルマガ配信など
- 視聴数 : 当日参加150名目標
後日アーカイブにて**7万～10万回再生想定**
- 採録 : 後日寺子屋朝日HPに採録記事を掲載（**1万PV想定**）



セミナー（内容）

- 時間 : 40～50分
- テーマ : 「介護とキャリア教育」
- 出演者案 : キャリア教育有識者、**介護事業者・実践者**、ファシリテーター寺子屋朝日編集長
- 内容 : キャリア教育の大切さと、介護・福祉業界の事例、取り組み好事例など

本事業（介護職発信事業）の採択者と連携したセミナーを検討いたします

※ウェビナー後にWEBアンケートの実施、アーカイブ配信の告知を行います



2022年4月～2023年10月で累計47件のウェビナーを実施し、のべ10,500人程度の視聴者が参加

具体的な手法



5. 教職員向けイベントの開催



寺子屋朝日
for Teachers

小中高校で働く教員、学校職員、教育委員会、教育関連の省庁、団体関係者をターゲットとしたWEBサイトです。教員の課題解決に役立つ情報・サービスを提供しています。

会員登録制の教員向けウェブサイト

教員視点で日々の授業や校務に役立つ情報を発信する会員登録制ウェブサイト。校長などの学校管理職や、教務部・ICT担当など幅広い教員が登録。教育委員会の登録も**400名**を超える。

#GIGAスクール #探究 #部活動
#教職員トピック解説 #ICT用語解説



詳細な教員情報をDB化

学校内での教員の役割や決裁権など、マーケティング活動に必要な情報も会員情報として蓄積。顔の見える教員に情報を届ける手段として活用可能。

氏名	住所
メールアドレス	勤務校
教員歴	職階
校務担当	担当教科

会員数
約10,700名

小：中：高
3：2：3

会員向けウェビナーを定期的に開催

有識者、教員など多彩なキーパーソンによるウェビナーを継続的に開催。平均申込者数は約200名。ICT活用、探究を中心に幅広いテーマで開催しており、企業ニーズにあったテーマ設定・人選をご提案可能。



会員登録数： **約10,700名** (24年2月時点)

具体的な手法



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

読者コミュニティを活用した職場体験+セミナーの開催

アクティブシニアに対してセカンドキャリアのきっかけ作りとともに、その選択肢としての介護のしごとの魅力を伝える施策です。令和5年度の本事業では、好きなことを生かし社会に役に立てる介護のしごととして、周辺業務などについてセミナーを展開しました。「介護のしごとをもっと知りたい」「実際にどんな仕事か知りたい」といった参加者のアンケートから、介護のしごとをより具体的にイメージできるような内容にするため、弊社の読者コミュニティを活用した職場体験に基づくセミナー企画を実施いたします。

読者会議メンバー募集



読者コミュニティへのメルマガでメンバーを募集

体験会の実施



集まった読者メンバー（2～3名）による福祉施設等での職場体験会を実施。体験会を動画で撮影・編集。

セミナー開催



職場体験会に参加した読者メンバーや介護経験のある著名人を交えたセミナーを開催。体験会の映像を使って、実際に仕事をするイメージを持ってもらう。仕事相談ブースへも誘導。

アーカイブ配信



セミナーの様子を後日アーカイブ配信（10万回再生）



ハリー 杉山 さん

20代の頃、パーキンソン病と認知症を発症した父を自宅で介護。介護のイメージを変えるために積極的に発信。



駒村 多恵 さん

実母の介護を15年以上続けており、仕事をするかたわら介護福祉士や介護食士の資格を取得。

■ セミナーテーマ

体験して知った「介護のしごとの魅力」

■ 出演者案

- ・ハリー杉山さん 駒村多恵さん 介護事業者
- ・体験会参加の読者メンバー（2名程度予定）

■ 内容（予定）

20代からお父様の介護されてきたハリー杉山さんと実母の介護を15年以上続け、仕事のかたわら介護福祉士や介護食士の資格を取得した駒村多恵さんに、職場体験に参加した読者メンバーが介護の仕事の魅力について語り合うトークショーを開催します。



具体的な手法



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

Reライフプロジェクト

人生100年と言われる長寿時代に、50代からの人生後半をアクティブに生きるための暮らしの悩みや楽しみを共有しようと、2014年に朝刊で「Reライフ」面がスタートしました。子育てが一段落したり、定年したりして、ライフステージが大きく変化した方々が“充実した人生”を送るために役立つ情報をお届けしています。紙面やWEBサイトなどのメディアを活用しながら、リアルなイベントなども実施。読者コミュニティ「読者会議」をベースに、情報感度の高いアクティブシニアと強く繋がっています。

メディア

朝日新聞朝刊「Reライフ」面



第1・第2日曜 発行：約500万部

ウェブサイト Reライフ.net



<https://www.asahi.com/relife/>

- ・月間PV数 **150万PV**
- ・ユニークユーザー数 **40万**
- ・Facebook フォロワー **4800人**
- 「X」も2020年4月からスタート

2023.4月現在

コミュニティ



読者会議メンバー **約25,000人**が登録

(2024.1月現在)

発足から約5年で、体験会・座談会、アンケートをのべ**400回以上**実施。

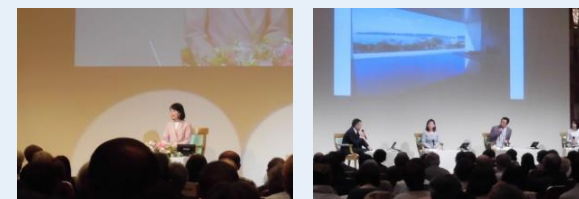
- ・体験型イベント：ファッション講座や家電のお試しモニター、映画試写会、展覧会鑑賞など
- ・オンラインイベント：不定期にセミナーを開催。様々な課題について、読者同士が意見交換するもの。

メールマガジン

Reライフメール毎週発行 **約4.5万人**

イベント

Reライフフェスティバル



アクティブシニア
約3,000名が集う
大型イベント



2016年春より東京・日本橋（ロイヤルパークホテル）で定期開催（応募数約**10,000名**）。

2020年1月には大阪で開催、コロナ渦では「@home」としてオンライン開催。

2024年3月には東京でリアル開催！

約3,200名が来場しました。



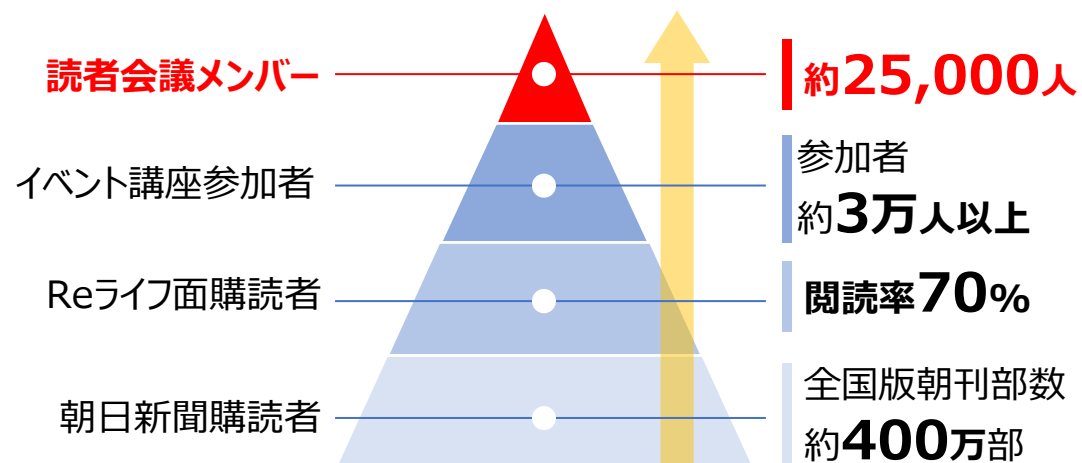
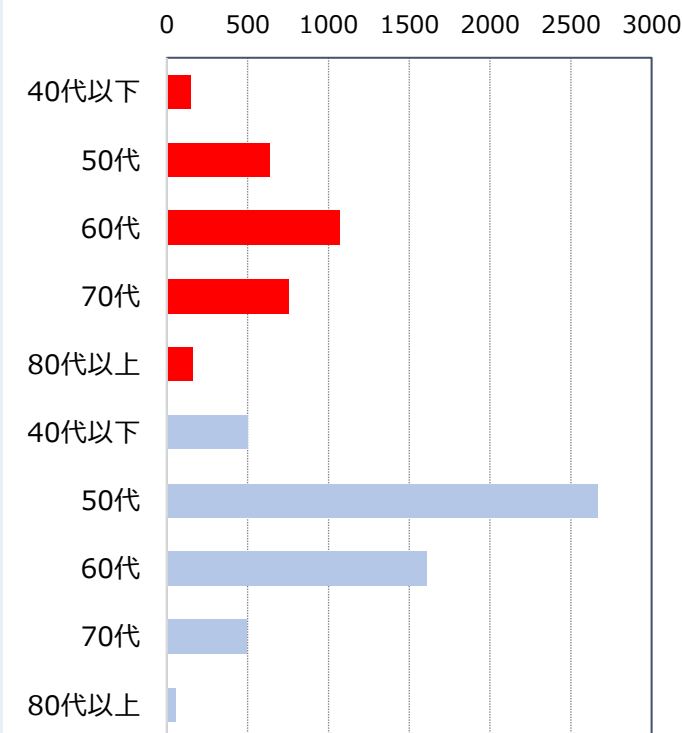
6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

Reライフ読者会議メンバーとは

等身大で顔の見えるコアコミュニティ、約25,000人！（2024年1月時点）
意識が高く意欲的な方々が多いアクティブシニア層で、座談会や商品モニター会等を通じて、ターゲット世代である**50代以上**に対して、メディア掲載における「リーチ」×「理解度」の最大化を図ります。



Reライフ読者会議メンバーの属性



具体的な手法



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

全国紙での掲載

「Reライフフェスティバルセミナー」の採録記事を全国紙である朝日新聞に掲載。

ターゲットである50代以上の **アクティブシニア層** に向けて、イベント内容を効率的・効果的に届けます。



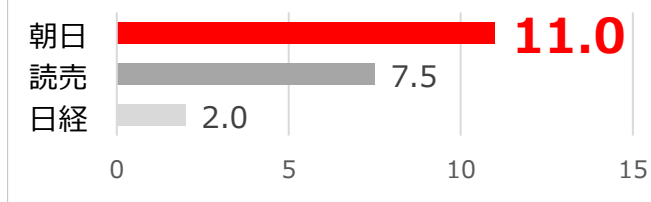
朝日新聞

圧倒的なリーチに加え**介護・福祉職**や**教育・自治体関係者**を読者に多く抱える

掲載概要（予定）

- 媒体：朝日新聞 全国版朝刊
- 体裁：全15段カラー
- 部数：**3,974,942部**
- 時期：2025年3月下旬

介護・福祉職が宅配購読している新聞

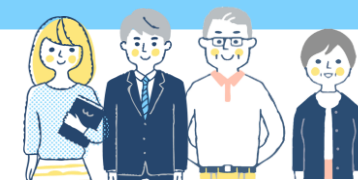


介護・福祉職(n=200) 2020年全国



ウェブサイト「Reライフ.net」にて、
後日アーカイブ配信

10万回 再生以上



7. ポータルサイトの利活用

- イベント等で介護の仕事を知った方が実際に介護職を目指すまでには、繰り返し情報に触れて、理解を深めるという過程があります。「もっと知りたい」という気持ちに応えるための受け皿として、ポータルサイトの整備は欠かせません。
- そこで、既存のポータルサイトの中に、各種制作したコンテンツを格納し、将来的な職業の選択肢となるよう、情報発信を強化します。
- 本事業の他採択者とコンテンツ連携を行い発信も強化します。

